

図書だより

ポレポレ



城中図書館へようこそ 4号

2024年10月

(*ポレポレとは、スワヒリ語でゆっくりゆっくりという意味です。)

城山中学校

学校司書 中島順子

学習発表会、合唱コンクール。三の丸ホールに響き渡った美しい歌声♪ レベルの高い吹奏楽部の演奏。何日もかけた取り組み、練習、そして実を結び力を出し切った皆さんの笑顔、支えてこられた先生方。どれも素晴らしかった★感動をありがとうございます♡♡♡

【2024年 第78回 読書週間 “この一行に逢いにきた”】



図書ボランティアさんの朝読み🍷 10月29日(火) 2年生

2年1組 『ぜつぼうの濁点』 原田宗典(作)

柚木沙弥郎(絵)

2組 『いすになった木』 梁淑玲(作)

宝迫典子(訳)

3組 『火の鳥』いのちの物語 手塚治虫(原作)

鈴木まもる(文/絵)



ノーベル平和賞受賞 日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)

～受賞理由「核兵器のない世界の実現に尽力し、核兵器が二度と使われてはならないことを長年証言を通じて示してきた」～

*1945年8月6日広島、8月9日長崎に、人類初の原子爆弾が投下された。来年は、広島と長崎に住む推定12万人が亡くなってから80年となる。

《★城中図書館にある平和コーナー★》



『はだしのゲン わたしの遺書』中沢啓治 (著)

・6歳で被爆した中沢啓治さんの実話をマンガにしたのが「はだしのゲン」。世界24言語に翻訳され世界中に原爆の恐ろしさを伝えます。「人類にとって最高の宝は平和です」(本文より)まさに中沢さんの遺書となった作品です。



『さがしています』アーサー・ピナード (作)

・8時15分をさし被爆して止まったままの時計、お弁当箱、靴…広島平和資料館で展示されているモノたちがカタリベとなる。ピカドンを経験したカタリベたちが、今の世界を見つめている写真絵本。

<他にも『小さな祈り』詩画集、『ひろしまのピカ』、『ある晴れた夏の朝』など多数>

♡司書のイチオシ本!♡



『宙(そら)わたる教室』伊予原新 (著)

・舞台は定時制高校。さまざまな事情を抱えた生徒たち。「科学部」を結成し、「火星のクレーター」を再現する実験を始めた。夜の教室で小さな奇跡が起きる。ドラマチックな青春科学小説! (NHKにてドラマ化)

～“第一章 夜八時の青空教室”～柳田岳人21歳、定時制高校2年生。「1年間ここに通ったがなーんも変わんね。教科書の文字を追っかけようとしても、すぐぐちゃぐちゃになって、文字がつかまらねえ」…略…タブレットのフォントをディスレクシア用に変えたら劇的に文章が読めるようになる!…略…「俺はバカじゃねえ。怠けていたわけでもねえ。それなのにあいつら笑いやがって。よってたかって、バカにしやがって。俺はー」うなだれて拳を握り鳴咽した。(本文抜粋)～「人間は、その気にさせられてこそ、遠くまで行ける」(本文) 今年一番の感動作です!

*ディスレクシアについて一知的能力には異常がないのに、読むこと書くことに困難がある学習障害のこと。(にじんで見えたり、反転して見えたり様々)周りに理解されずに大人になり進路で苦労したり、なまけている!と誤解される。-(ディスレクシア対応グッズ、図書館にあります)